羽黒山參上之繪馬之変

羽黒山參上永正十五年八月廿五日
茶北等四郎時政 加肥次郎宗平 藤九郎盛長 佐々木
四郎高綱 武州金澤住人 和田小次郎義盛 長崎四郎左衛門尉義連 秀之
宮内左衛門尉 伴野小四郎長泰 右筆 大友能直 高年五十有餘
右法眼の筆書ける歌 (ブナヨシビロ) 雪踏の繪馬 其古へ幣の里へ放
もで青麦を踏みてうら心因縁ふて今ま拝の里て
畑ま麦を踏んでもうま 古里が呂年中行事の書れ
る時ふる翁を安く法師が 毎年ぞ時ま定まる例の関白左中
門に参り金峯山の参上精記ま造立てうら定朝が獅子
狛犬ハ社檀の上ま遠会にて ち体ちう落ちうき定朝七代の
孫院覚法橋が 拾本を以て造進 ーうし其谷の地蔵堂
の小鬼ハ彼ま生ちてうて暁ハ必ず来ぬそぼ雪ま
庭ま行う近隣の里ま女ま鬼ま ま恐ま寺僧収ふて決